

心に残る体験が、未来への道を照らし出す

な技術があつてこそ、今の建設ができるんだと分かった



土木・建築分野を学ぶ高校生に実際の現場を見てもらい、その魅力と重要性を知ってもらおうと、

(一社)山口県建設業協会では、毎年県内各地で建設現場見学会を実施しています。今回は平成26年6月11日に行われた田布施農工高等学校1年生39名(男子31名、女子8名)の現場見学会取材しました。

初めに訪れたのは、山口市小郡にある「小郡ジャンクション(仮称)」の建設現場。主要県道山口宇部線の改良工事の一環として進められているもので、地域高規格道路の山口宇部道路と中国自動車道との連結により、時間短縮と山陰・山陽地域の交流促進などを目的としています。

現場見学会

田布施農工高等学校／環境土木科



生徒の皆さんは、事業の概要について説明を受けた後、橋の上部工と下部工の現場をそれぞれ見学し、実際の足場にも上がらせてもらうことに。メッシュシートを覆いを緊張の面持ちでくぐり、作業現場を目の前にすると驚きの声が上がっていました。

その後昼食を挟んで、山口きらら博記念公園都市公園整備工事現場へ。埋め立て地であるこの場所は、しっかりとした地盤(圧密完了)になるまで、最大で約25年を要するといわれる軟弱地盤ですが、平成27年に同地で開催される「第23回世界スカウトジャンボリー」に合わせ、プレロード盛土という工法を用いて、圧密沈下促進を行っています。

約50haにも及ぶ広大な現場に、生徒の皆さんも圧倒されていました。技術者の方の熱心な説明を受け、「雨の日はどうするのか」「土木の仕事をするにはやはり力が強くないとダメなのか」など、さまざまな質問が飛びました。また、下水管設置工事の現場にも生徒の代表がいらさせてもらい、階段を下りるところから作業中に注意すべき点まで、現場ならではの話を聞くことができました。最後に技術者の方から「無駄なことは何もないので、色々なことを経験して、やる気をもってこの仕事についてほしい」との激励を受け、和やかな空気の中、笑顔で見学を終えました。

生徒さんにお話を伺うと「色々な技術があつてこそ、今の建設ができるんだと分かった」



「実際の現場は少し怖かったけれど、迫力がありすごいと思った」などの声が聞かれました。

引率された同校の長岡先生は「今回見学させてもらった1年生はまだ、建設とはどういうことをやるのかが手探りの状態。実際の現場を見せってもらうことで具体的なイメージも掴みやすくなり、これからの進路選択の際にも大変参考になると思います。建築土木の分野の中で、自分に合った道を見つけて欲しいです」とおっしゃっていました。



安田先生



長岡先生

2014年度 高校生現場見学会 参加校 (延べ10校 327名)

実施日	対象生徒	学校名
6月4日	44名	徳山商工高等学校 (保護者14名)
6月11日	39名	田布施農工高等学校
6月13日	19名	萩商工高等学校
6月17日	35名	岩国工業高等学校 (保護者11名)
6月18日	22名	下関中央工業高等学校
8月21日	38名	山口農業高等学校
合計 6校 197名		

工事名	実施日	対象生徒	学校名
山口宇部線道路改良事業 (小郡ジャンクション)	5月29日	30名	下関中央工業高等学校
	6月5日	30名	萩商工高等学校
山口きらら博記念公園都市公園整備	6月11日	35名	柳井商工高等学校
	6月17日	35名	岩国工業高等学校
一般県道中ノ関港線道路改良工事現場見学			
三田尻中間港海岸高潮対策排水機場建設工事現場見学			
袖木川通常砂防工事 JR山口線第6阿武川橋梁工事			
山口宇部線道路改良事業 (小郡ジャンクション) 一般県道中ノ関港線道路改良工事現場見学			
合計 4校 130名			

